

令和 6 年度
教職課程
自己点検・評価報告書

令和 7 年 6 月

岩国短期大学

目次

I 教職課程の現況及び特色

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準項目 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 3 適切な教職課程カリキュラム

III 総合評価

IV 現況基礎データ一覧

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

(1) 大学名：学校法人高水学園 岩国短期大学

(2) 学科名：幼児教育科

(3) 所在地：山口県岩国市尾津町二丁目 24-18

(4) 学生数及び教員数（令和6年5月1日現在）

【幼児教育科】

学生数：教職課程履修者数 98名

教員数：教職課程専任教員数 12名

2 特色

幼児教育科は、教育基本法並びに学校教育法に基づくとともに伝統ある高水学園の精神に則って、国家社会の有為な形成者にふさわしい一般教養と、専門的職業に重点を置く高度な知性とを修得させ、国家の福祉と人類文化の創造発展に貢献することのできる心身ともに健全な人物を育成することを目的とする（学則第2条）。

幼児教育科では、「保育者としての専門的な知識と技能」「表現力とコミュニケーション能力」「責任感と協力性」「地域貢献と敬愛の精神」の4項目を学習成果として定め、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の国家資格を取得するために必要な専門教育科目と、表現力やコミュニケーション能力、社会的に自立できる人材の育成を目的とした基礎教育科目で編成された教育課程を実施している。また、初年次教育やキャリア教育に関わる科目、表現力育成の科目、さまざまな行事や特色的な取り組みを通じて協働実践力の醸成を図る科目等を開講するなど、保育者としての専門的実践力を身につけるための教育課程を編成している。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1－1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

岩国短期大学幼児教育科は、建学の精神「楽学」及び教育理念（徳性の陶冶を重んじ、人間性を練り鍛え、豊かな人間形成を図ること、地域に生きて働く人材の育成）に基づき、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を、「2年間の学習を通して卒業要件を満たし、さらに、保育者資格取得に向けて努力を行い、「教育実践力」と「人格の練成」に努めた学生に対して、社会で活躍できる人材として認め、短期大学士の学位を授与する」とし、卒業要件、免許状及び資格要件、成績評価の基準、4つの学習成果を定めている。

これらの学習成果を達成するために、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を定め、体系的で系統的な教育課程を編成・実施している。すべての授業科目が学習成果と関連しており、明示されたシラバスに沿って授業を行っている。また、4つの学習成果とカリキュラムとの関連性を体系的に図示し、授業科目間の系統性・体系性を可視化したカリキュラム・マップを作成している。これらの実施状況確認・改善のために、自己点検・評価活動、FD・SD研修を計画的に実施している。

〔長所・特色〕

卒業認定・学位授与の方針で示した4つの学習成果は、本学独自の学習成果個人チェックカードで学生が前・後期ごとに自己評価を行うことで定着を図っている。また、本学シラバスは学習内容を記録するポートフォリオとなっており、そこで授業科目の振り返りも行っている。個人チェックカードの自己評価データは、GPAや実習評価、ボランティア記録などと共にディプロマ・サプリメントに記録され、学生が確認を行うことができる。

〔取り組み上の課題〕

個人チェックカード、シラバス・学習記録、各授業でのループリック自己評価など、学生が自己評価を行う場面はたくさんあり、それぞれの意味付けはなされているが、学生が系統性を感じながら自己評価を学習につなげるしくみが不十分であり、今後の課題である。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料1：岩国短期大学 令和6年度自己点検・評価報告書
- ・資料2：岩国短期大学 令和6年度学生便覧
- ・資料3：岩国短期大学 令和6年度シラバス・学習記録

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

岩国短期大学幼児教育科は、教育課程編成・実施の方針に基づき、科目を担当するにあたり十分な教育研究業績を有する教員と実務経験のある教員を厳選に配置している。クラス顧問制により学生相談、進路指導の充実を図っている。事務局学生支援課教務係が免許申請や教職課程の教育課程を管理し、単位取得状況等は教務部が中心となりクラス顧問と密に連携し、指導に生かしている。授業を行うために、1号館、2号館、3号館、講堂、講義室の他、科学室、美術室、音楽室、ピアノ練習室（27室）、情報処理室等を備えている。また、「保育ルーム・ドレミ」を設置し、実習指導や模擬保育等の授業に活用している。花壇や農園（野菜畑）も有している。1号館の第1講義室～第6講義室まで、液晶モニター及びDVD機器を設置し、デジタル機器での授業が展開できるよう環境を整えている。また、演習室5、パソコン室、音楽室、科学室、大講義室、視聴覚室、講堂（体育館）に無線LAN環境を整備し、音楽室、科学室、大講義室、視聴覚室、LL演習室には、天吊り型のプロジェクタを設置し、遠隔授業に対応できるよう整備している。図書館は、**令和6年度時点で蔵書数18,554点**である。購入図書選定基準は、教育課程編成・実施の方針に沿った講義・実習に対応した図書、学生・教職員からのリクエスト、各教員からの研究図書、図書館司書による新刊図書の選書等としている。キャンパス内には無線LANを配備して授業における情報通信技術の活用基盤を整備している。

教職課程の質的向上のために、学生による授業評価アンケートの評価結果を生かした授業改善を行うとともに、授業改善のためにFD・SD研修を計画的に行っている。

〔長所・特色〕

教職課程は、科全体で管理運営しており、教務部、各部会、科会、教授会、自己点検・評価委員会等において定期的に点検、評価、報告を行っている。教職課程の質向上・充実のために、GPA分布、単位取得状況、免許資格取得状況、就職状況、シラバス・学習記録（ポートフォリオ）、学習成果個人チェックカード等をもとに教育の向上のためのPDCAサイクルを活用している。

〔取り組み上の課題〕

自己点検・評価委員会内に、教職課程の在り方によりよい改善を図ることを目的とした部署の機能を設けることが目下の課題であり、現在進行中である。また、教育課程の改善に関するFD研修を進めることが必要である。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料1：岩国短期大学 令和6年度自己点検・評価報告書
- ・資料2：岩国短期大学 令和6年度学生便覧

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

岩国短期大学幼児教育科では、建学の精神に基づいた入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）を掲げ、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の取得及び卒業後の社会貢献ができる人材、また、「保育者としての専門的な知識と技能」「表現力とコミュニケーション能力」「責任感と協力性」という専門性と人間力、「地域貢献」と自分と関わる全てのものに対する「敬愛」の精神を兼ね備えた人材を募集している。本学Webページや大学案内、学生募集要項等だけでなく、高等学校説明会や進路ガイダンス、オープンキャンパス、高大連携授業プログラムの出前講座等を通じて、本学が志願者に求める資質能力について伝えている。その他、HPには、教育目的やカリキュラム・マップ、組織体制など、教職課程に関する情報の公開や教員養成の取り組みに関するページを掲載し、教員の魅力を伝えている。入学した学生は、カリキュラム・マップを通して、本学がめざす学生像（4つの学習成果）を柱とした教育課程への理解を深める。学習成果の習得状況は、成績評価、実習評価、「保育教職実践演習（幼稚園）」の教職履修カルテ、保育内容研究、各行事後のループリック自己評価等から、量的質的データを用いて総合的な評価を行っている。

〔長所・特色〕

入学者受入れの方針には、関心・意欲・態度に関すること、知識・技能に関すること、コミュニケーション能力に関すること、基本的な生活習慣に関すること、入学前に基本的に学習しておくことを期待する内容や入学者選抜の方法を具体的に明示している。入学予定者を対象に「プレカレッジ」を設けており、「プレカレッジ」の講座では、入学前から将来の進路について再確認し明確にした上で、入学までに知っておいてほしい内容や、必要となる知識や技能について講義・演習形式で行っている。「プレカレッジ」では、簡易なシラバス形式で書かれた内容を含む冊子を作成使用し、入学後の授業への接続に配慮している。「プレ保育塾～先輩から学ぶ（在学生）～」は、在学生が講師となり、製作物の指導や学生生活のアドバイスを行う講座となっている。また、「ピアノレッスン」や「ICT入門」など、技能の習得を図る講座と共に、「保育者としての教養」や「学生の基本的生活習慣」などの大学での学習を円滑に行うための基礎講座を開設している。また、入学直後に、新入生全員と2年生リーダーが参加する「新入生研修会」を実施している。「新入生研修会」はキャリア支援プログラムに添って、大学生としての自覚、保育者となるための教養を身につけ、集団活動の中で目標に向かって協力することの大切さを考え、社会人に向けて大学生活を意欲的に取り組む姿勢を醸成する場としている。2年生リーダーが、新1年生との交流を図る活動や意見交流等の体験を通して、リーダー性を身につけ涵養する目的もあり、両学年を通じて学習成果が期待できる行事となっている。

〔取り組み上の課題〕

少子化が進行する中で学生を確保するためには、在学生の満足度を高めるとともに学生

自身が自己的学習成果を確認し向上できるような仕組み作りが必要であり、課題となっている。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料1：岩国短期大学 令和6年度自己点検・評価報告書
- ・資料2：岩国短期大学 令和6年度学生便覧

基準項目2－2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

本学では、学生に対して、履修から卒業までクラス顧問が主となって指導をしている。教員はオフィス・アワーを活用するなどして個人面談を行い、学生の職業意欲や適性の把握に努めている。また、学年ごとに、保護者懇談会を開催し、学生生活・学習状況に関する情報を提供することにより、保護者との連携を密にしている。毎月の科会で、課題のある学生などの情報交換を行い、クラス顧問が中心となって個別指導を行い、入学から卒業まできめ細やかな指導を行っている。また、キャリア支援センターが主体となり、各種部会、委員会、事務局学生支援課等全教職員と連携を図りながら、独自のキャリア支援プログラムに基づいた職業教育を推進している。当センターには両学年の学年主任が所属し、情報の共有化と連携の緊密化を効果的に図っている。キャリア支援プログラムは、入学前の「プレカレッジ」に始まり、入学後の新入生研修会、「キャリア開発」関連授業、就職ガイダンス、就職試験対策講座、卒業後の「フォローアップセミナー」までキャリア支援体制を整えている。その間、求人情報の紹介、履歴書の添削、面接練習等の支援も行っている。また、卒業生を受け入れる園、施設、企業からの評価・意見の聴取、免許の取得率、就職率等を測定・評価することで、職業教育の効果を検証し、教育課程・教育方法の向上充実・改善に努めている。

〔長所・特色〕

幼児教育科では、基本的に全学生が幼稚園教諭二種免許状および保育士資格を取得することを前提としてキャリア支援の充実に努めている。前述した独自のキャリア支援プログラムでは、教職員による支援に加えて、卒業生、地域の園や施設の方々による学びの支援も行っている。幼稚園・保育園園長による面接対策講座、卒業生である保育現場の保育者を講師に招く「ようこそ先輩！保育実践力養成講座」、地域の園、施設を招いた本学学生のための「就職ナビ in いわたん」等の実施で、学生は就職や目指す保育者像へのイメージを具体的に持つことができ、進路の動機付けや就業意欲の向上につながっている。

〔取り組み上の課題〕

学生の職業観を充実させ、目指す保育者像を深めるためのサポートを引き続き行っていくため、「就職ガイダンス」「ようこそ先輩！実践力講座」などの内容の充実が課題である。また、「キャリア開発」のような一斉授業に加え、キャリア支援センター面接などのより丁

寧な個別指導を行い、教職課程履修の意思確認に努める必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料1：岩国短期大学 令和6年度自己点検・評価報告書
- ・資料2：岩国短期大学 令和6年度学生便覧

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

岩国短期大学幼児教育科は、保育者（幼稚園教諭および保育士）の養成を主たる目的としている。建学の精神がめざす「教育実践力」と「人格の練成」に努める人材を育成するため、系統的な教育課程を編成している。すべての授業科目が学習成果と関連しており、授業科目間の系統性・体系性を可視化したカリキュラム・マップを作成し、履修マップと合わせて、履修者に対して学習の段階や順序等をわかりやすく示している。また、履修登録の上限単位数を定め（キャップ制）、それを踏まえて卒業までに修得すべき単位を定めた上で建学の精神を体現化した特色ある教職課程カリキュラムを行っている。

学生は、シラバス・学習記録で振り返りを行うとともに、シラバスに記載された到達目標の自己評価を行っている。また、前・後期ごとに、学習成果個人チェックカードを用いてこれまでの学びや実践を省察したり、幼児教育科自己点検評価表に組み入れられた学習成果のルーブリック評価で自身の資質能力を見つめ、課題が見つけられるようにしたりしている。ICTに関しては、令和3年度に「ICT活用スキル習得プログラム」を作り、ICT機器を活用し、情報活用能力を育てる教育に対応するため、コンピュータ科目を中心に情報活用能力を育てる教育への対応を行っている。また、アクティブラーニングを意識した授業の活用を進めており、各授業においてシラバスに明記し、積極的に運用している。教育実習を行う上で必要な履修要件は、「実習の手引き」において明記されている。また、実習の履修のための要件、資格等は「教育実習及び保育実習に関する内規」に定められている。「保育・教職実践演習（幼稚園）」では、教職履修カルテやポートフォリオ（シラバス・学習記録）を用いた指導を行い、教職に必要な資質能力の評価を行い、学生の学習状況の把握に努めている。そのうえで、「保育・教職実践演習（幼稚園）」のオムニバス授業において、グループ活動やロールプレイ等を通して、教職課程における学習内容の振り返りとフィードバックを行いながら、学生の資質能力を確認している。

〔長所・特色〕

本学の教育の目的・目標、教職課程コアカリキュラムを踏まえ、教職課程科目とそれ以外の教科目等との系統性を確保しながら特色あるカリキュラム編成をしている。さらに、「ICT活用スキル習得プログラム」を基に、情報機器に関する科目や指導法科目を中心に適切な指導が行われている。また、学生及びステークホルダーなど学外からの意見をアンケートなどで取り入れながら自己点検・評価を行っており、それらをふまえた教職課程カ

リキュラムを実施している。

〔取り組み上の課題〕

教養教育では、教員による評価と学生の自己評価の数値を比較・分析するなどして効果の測定・評価を行っているが、そのほかの教職専門科目に広げていくことが課題である。

また、教育実習を行う上で必要な履修要件の運用に課題があることから、内規の見直し等を行う必要がある。さらに、「学習成果個人チェックカード」、ポートフォリオとしての「シラバス・学習記録」、「履修カルテ」が各々に活用されていることから、これらを系統化し、学習成果がより効果的に運用され学生の学びにつながるよう見直しを行う必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料1：岩国短期大学 令和6年度自己点検・評価報告書
- ・資料2：岩国短期大学 令和6年度学生便覧
- ・資料3：岩国短期大学 令和6年度教職履修カルテ
- ・資料4：岩国短期大学 令和6年度シラバス・学習記録

基準項目 3－2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

教育実習は、現場において体験的な学習ができる貴重な機会である。本学では、全科目の知識・技能を基礎として、幼児と直接ふれ合い具体的・総合的に保育をする実践科目として位置づけ、意欲をもって実習に臨めるよう実習運営を行っている。マナーや心構えを含め、基礎から応用へ段階的な実習内容となるよう、県内外の協力園と連携して、実習を運営している。教育実習は、1年次12月に一週間、2年次6月に一週間、2年次10月に1二週間の計20日間を教育実習（4単位）として実施し、学生の実践的指導力の育成にあたっている。実習期間中は教員が実習園を巡回し、学生に指導助言を行っている。また、他の授業において、本学近隣の幼稚園児を招いた「お店屋さんごっこ」「芋の苗植え、芋ほり」などの様々な体験活動を実施することを通して、幼児について学生が理解する機会を設けている。

〔長所・特色〕

本学では、実習受け入れ先との連携を図るため、「教育・保育実習連絡協議会」を毎年実施し、その結果に応じて実践的な養成教育への見直しを行っている。実習前に「実習事前指導」として手遊び、パネルシアター、素話等の保育技術指導を全員に個別に行い、学生は実習先でその技術を生かすことができている。また、実習評価の低い学生に対しては実習担当教員と担任が面談を行い、実習先からの指導内容や本人の課題を生かしながら次の実習に役立てるようしている。また、1、2年生合同学習会において、実習前の1年生に対して2年生が指導案や実習日誌など個々の体験に基づいてポスターにまとめ、プレゼンテーションにより具体的なアドバイスを行っており、学生に好評を得ている。

〔取り組み上の課題〕

実践力の基礎を学んだり、次年度の実習先を選択したりするため、1年生を対象に自主実習やインターンシップ実習を推奨しているが、まだ6割ほどの実施率である。**来年度は年次計画の中にインターンシップ期間を設け、指導、支援する予定である。**

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料1：岩国短期大学 令和6年度自己点検・評価報告書
- ・資料2：岩国短期大学 令和6年度学生便覧

III 総合評価

本学の教職課程については、基準Ⅰ～Ⅲの観点において、取り組み上の課題は各々であるが、総合的には良好であると判断できる。今後も本学の長所・特色を維持しながら課題点を克服し、改善を重ねていく必要がある。

特に、学習成果の達成のために、個人チェックカード、シラバス・学習記録、各授業でのループリック自己評価など、学生が自己評価を行う場面はたくさんあり、それぞれの意味付けはなされているが、学生が系統性を感じながら自己評価を学習につなげるしくみが不十分である。今後の課題である。また、教育実習を行う上で必要な履修要件の運用にも課題があることから、内規の見直し等を行う必要がある。

学校法人 高水学園					
岩国短期大学 幼児教育科					
1 卒業者数、教員免許取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					53
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					48
③ ①のうち、教員免許取得者の実数 (複数免許取得者も1と数える)					42
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (幼稚園教諭) (正規採用+臨時的任用の合計数)					20
④のうち、正規採用者数					20
④のうち、臨時的任用者数					0
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他()
教員数	4	2	5	0	
相談員・支援員など専門職員数 0					